

通

法
語
集

0931

40

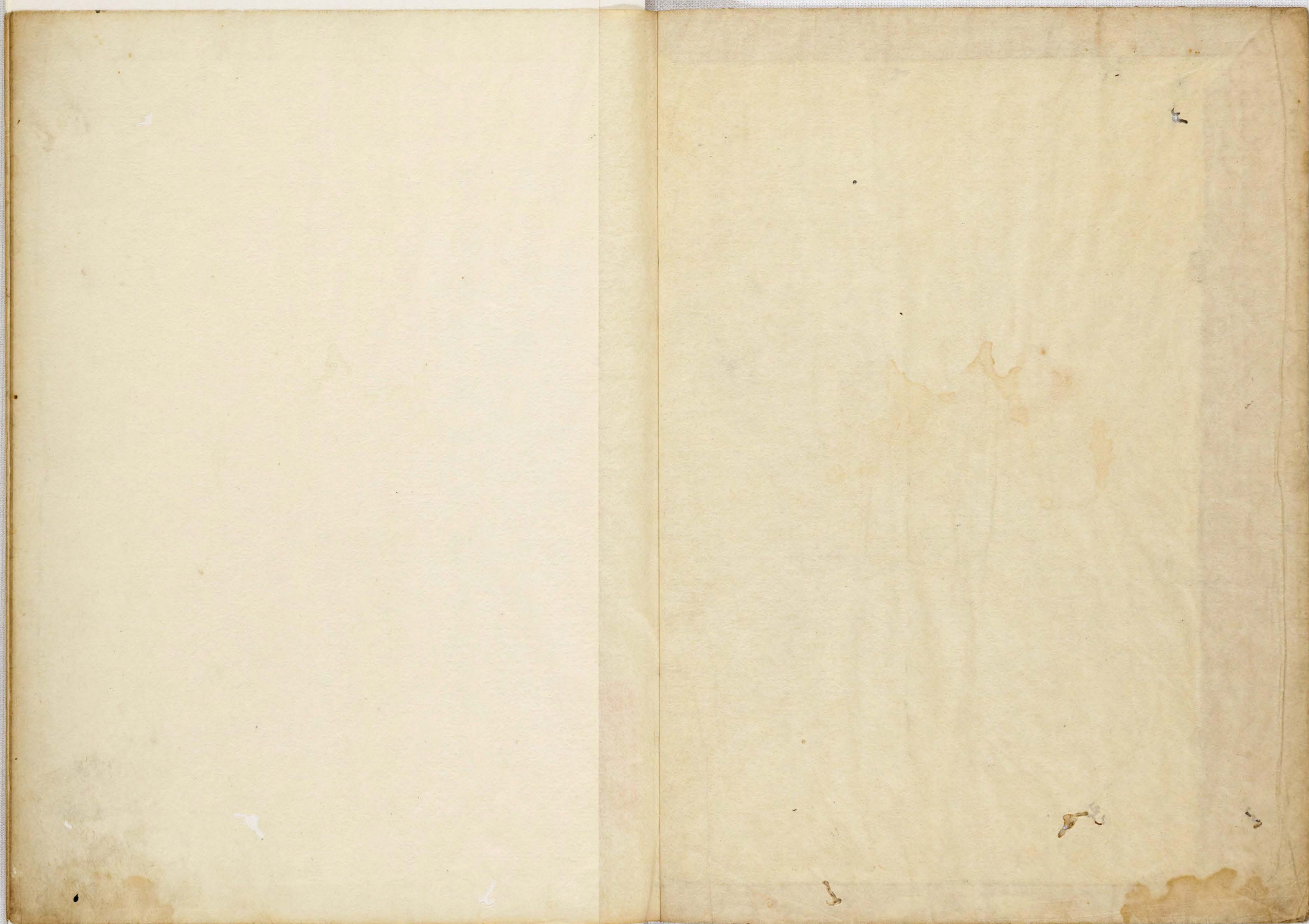
高
島
寬
我
旧
藏

年
月
日

佛教大学蔵書

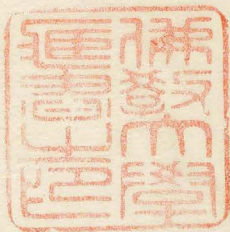
第 168206 号





無量壽經

設我得佛十方衆生至心信樂欲生我國乃至十念若不生者不取正覺唯除五逆誅謗正法



善導大師釋曰

若我成佛十方衆生稱我名号下至十聲若不生者不取正覺彼佛今現

在世成佛當知本誓重願不虛衆生
稱念必得往生

觀無量壽經

汝好持是語持是語者即是持無量壽

佛名

一心專念稱隨名号行住座卧不問時節久近念之不捨者是名正定之業願彼佛願故矣

聖德太子

字智見極樂經愚人罪人當得往生是異於聖人說其所

疑不少矣問之左右僧答彼佛願力尚蓋依怙愚人惡人

破聖教旨金藏相疑太子聞之乃召字智而慰問曰汝宗

有詩經周公孔子撰其經說何旨而化何棧耶字智答言詩

風陳人太子告曰汝唯解詩表趣未解詩本趣詩唯有情

未曾在理猶吾先神先皇心詠歌置於情吾異自至一

正誠離虛妄佛法何無情法念佛在情非理譬言如風人月

花挽我万邪皆忘不偃聖理而淨情行成君子情念佛

之道亦復如是專念彼佛唯願往生一心不乱稱善尚
又取况惡遠離世安又離法理不成就諸佛情不修
得菩薩道理者所不知悟者所不達如是法前無智愚
論無上下根於此學會念佛道

行基菩薩謠語

更淨去よあれこれいんりのふところれく醒
よあれこれいんりのふところれく醒

あつてい乃そとあるにわたり俗よむむけい
人のこゝあれこのよれ中やいれのこゝろ
よの身をくくはれ鳴呼三界いれ八苦
充滿乃所たり浄去よあれこれ此苦哉のれ
いんり浄去十方りあれ皆行乃こゝろ
ていんり五濁惡世りて好むのこゝろた六方
恒沙乃諸佛の證誠よまのれく南無阿弥随佛

と唱くまはしるるに志はしるる事速に待て
一に死に候ふ事よしるるに一切を捨て
下りて孤獨ありていなりたも死に候ふ候
わらじまはしるるに死に候ふもいなり候
候はしるるに死に候ふもいなり候
通下宗

弘法大師起定中示明遍僧都之辭
指西方一方者方便也簡九域而止亂
心分正行五種者方便也廢四行而取
稱名知與不知唱則遂往生悟與不悟
稱亦叶本願心緣聲而不斷謂之至心
信樂聲隨息而不亂謂之常念我名口
稱之上不可求心聲之則至心也常念

之外不可尋行念之則正行也故畢命
為期稱名者得心眼即開之大益者也
非顯教非密教難思法門也為定善為
散善又出離秘術也不悟者恠之不信
者輕之名難信法誠哉此言

空也上人法語

予是至愚極迷人也少而出家發心入

道以來心無所緣隨日暮留身無所住
隨夜曉去若人無怒打依何行忍辱是
吾善知識也彼怒我忍故忍辱衣厚不
聞罵詈誹謗慈悲室深不痛杖木瓦石
信口稱三昧市中即道場也任音聲見
佛息聲即念珠也夜之待來迎朝之喜
寂後近付三業任天運四儀讓菩提
以貧為樂以福為苦以生為歎以死

為悦今夜見夢く已為日く命減来
迎在近多生曠劫沉苦海今值沙本
願船不生疑惑深皈命證得無為法
壯身生死大海自無度乘大願船登
彼岸一切善惡諸衆生迅速皆入無
生忍上盡一形勤念佛下至一聲及
一聞罪業凡夫乘願力須臾命盡入
蓮

惠心僧都法語

之之惡道をのりてして人間よ生れうけしむ
大まねりよふこいなり身いんをくも畜生小
ねんや家まらくく母餓鬼よ勝るぬ
心りつたふ事たくも地獄よいんぬふへ
ら活まゝ世乃後まはく厭きよあちなり身のい
屋しよも福ふ志く人たかりちものけんい往生に念

佛のうらもれうたのふまの来世より四徳具大
たのふまの奉願よあふ事我悦画
又云念の凡夫の地獄なり別乃心のたのれ里
其妄念の念佛の四福なり極樂より生ずる時
ころころころころ覚る心なり此條終る
時より一向妄念の凡夫より省通し心して念仏
を申通し妄念の中より申すは念佛こそ

信
定
行
願
の
中
の
蓮
花
は
一
切
の
變
定
往
生
を
も
と
信
こ
ろ
は
た
り

源空上人一教起請文

主
我
朝
の
主
君
者
達
の
主
申
は
親
念
の
念
も
あ
は
ま
る
学
文
を
し
て
念
は
ら
は
り
て
申
念
佛
も
あ
は
ま
る
往
生
極
樂
を
も
と
思
は
ら
は
り

いさろく申外は別の子細帳に於て但之心四條と申
事代はいつれ変更して南無阿彌陀佛の如く往生
と云ふこと思ふうちに薩里のちりこけほろにむめ
かまひて存せし二尊はあつれ又よくつ違本願
よも我の通へ念佛を信す神人のまこと一代の
法をよしく學ぶとも一文不智の愚鈍の言なり
ちりて尼入道の志旨のまことにむめめと旨
者れまのまのまをさしりて

為證に西平印

淨土宗の安心起行此一紙に至極なり源空の存存此
外金別義を存せし滅後の邪義を始せん
免よ存存を以て平

建曆二年正月二十三日源空

念佛之門人多邪義人多破安心上人御滅後尚以根可異

義依之雖病床卧給浄土宗之安心起行之趣一紙申
請所也為令不殘疑滯上人以御自筆御判形令注
置給所如件

建曆二年正月廿九日 源智

稱念上人之法語

法然上人の云四流之心を沙汰する事一向專修よちる由

ての心は一向も流よちり流ぬれいふよ四流之心
を流す事一向專修にちる事流ぬる事
者よ成終らぬ道い唯相續して往生を待らる
るにちり力なる人其心をもつたに能よつき
往生の悦を別の心を發してあるにちり
はよき今度か往生の大事と思ふに別乃心を發
してよちり唯よちるをいふにちりして申せ

ハ極樂よまゝと心得るいふものハ後條終す
平ニ南無阿弥陀佛と唱へ終るは是者也 繼信心
したるは是稱名を弱く成るも只定信往生の思
り終持終るは若往生の大事成る處にてを
る尚心育いませ別れ心を發してあるは是か
といふこととして思ふは往生たれ信行といふたを
にほく乃弱を往生しとすたれと思ふは又別の心

を發して有也 唯稱念念佛のく往生は定不
定我いふもいふも身持して定むるは相
傳よるも定むるは相傳念念佛して定むるの
往生人乃身持たり心持たり聽聞也相傳也知識
也淨土宗也能同行此外は何もて存るは此
賢く又私の本尊也異香也紫雲也世間佛法
ハ深真ハ南無阿弥陀佛云

楞嚴經大勢至菩薩

超日月光如來教我念佛三昧譬如有一人專憶一人專忘如是二人若逢不逢或見非見二人相憶念深如是乃至後生至生同於形影不相乖異十方如來憐念衆生如母憶子若子逃逝雖憶何為子若憶母如母憶時母子歷生不相違遠若衆生心憶佛念佛現前當來必定見佛去佛不遠不假方便自得心開如染香人身有香氣此則名為香光莊嚴我本因地念佛心入無生忍今於此眾攝念佛人歸於淨土

西教寺真感上人法語

佛徒生此安心已定不為心之管也世法之非非
下之非也心之非也心之非也心之非也

衆生の念佛を申しして此念佛のちりふなりて
往生せんまうからんほりうれもろじいぬこに
ていへもうれい往生と念佛うの別のこぢやま
作ほまはたか意ほよていあへんもいひと
南無阿弥陀佛と唱ふ往生して作中を申し
佛をちのじ心たりこた心居く彼佛の光中
う拵取て控候り候運取と南無佛を阿弥陀とい

唱顯してうやうにまのじいれい心よ救ふ佛の
はらういりよたりてあせりいれと申佛の
心え則り運取の往生と南無はあまのこころに南無
はらう救ひの心よにいり候あまの珠教をさす
南無はあまの心よ南無はあまの心よ念佛よ
さりあまの心よ南無はあまの心よ念佛よ
うのこころ念佛の切なうあまを結ひぬま
是の心身の上の心教をさす事にして候

飛鳥井啟

學貴精專

朱元章謂學書須是專一於是更無餘
好方能有成而予聞古之善琴者亦謂
專攻三二曲始得入妙斯言雖小可以

喻大佛言制心一處無事不辦是故心
分兩路事不歸一情專志篤三昧速成
叅禪念佛人不可不知

遠師勸人舍娑婆而求淨土其教以金
銀為染心穢物以爵祿為羈身之器具
以女色為伐命之斧斤以華衣美食田
園屋宅為墮落三果之坑穽惟願脫人

世而胎九蓮則何歎何羨予曾在家真
實修行文勸世其大意謂凡實修者不
必成群作會家有靜室閉門念佛可也
不必供奉邪師家有父母孝順念佛可
也不必馳聽講家有經書依教念佛可
也不必惟施空門家有貧難宗戚隣里
知識周急念佛可也何以故務實者不
務外也願為僧者幸以普告諸居士

明日遠國へ行くはむいふとまらん心閑り
たしむらん人いひて常らんや依の夫
事なきいふは切なげくもあらん地
乃ちまういれと人の世をなまるといふとす
とてしやうとむらんをたしむらんや
まはるくはけ病もまういれとす
なまらんまういれとす

海一人百代儀或いし道はしつちりしりかぬ世
俗のきりしがらまよ随てこ我をさけしゆを
ハ福ういもたてく身せしりしりのいしり
たう一生の難事ハ小希よちつて我てしり
まきふらん思れ道きりしり吾生既ハ路宛
ましり諸衆を放下しりし時たりの信をもま
しりしり礼儀をぬたきりしりの心をえしり

人の物狂もいしりしりたりの情たりのもむりしり
るもしりしりしりしりしりしりしりしり
才陰にむりしりしりしりしりしりしりしり
思ひしりしりしりしりしりしりしりしりしり
ましりしりしりしりしりしりしりしりしり
る人しりしりしりしりしりしりしりしりしり
たり刹那おほえしりしりしりしりしりしり

くむまのうれい命を授けり朝もくらす地よいら
るうれい道人のいひてく日月を懐く海くうは
只今か一念じよらるるいひおひむら
まらまらて我命可憐いひてくうらうらうら
海くと昔らうあきまらんよあふくうら何
事なるまのまらよらるるいひてくうらうら
らうらうらうら日ちんを其時希よらるら

一日けうらに飲食便利睡眠言語行歩やじこ
らるらえらうらうらおほくの時をうらうら其あま
まらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
いひて益のいひて思惟して時をうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら

惠遠白蓮の文をゆゑにけりて志するの是
たるに時の死人はおとす一光陰たるのみを先よ
らむにけりたるに思慮なる外よ世事れ
もして思まん人のやと悦びん人の悦びん也
事なりたるにけりて思ふにけりて思ふにけり
は事なり一言芳信なるも名つ事なるも事なり
と信しよよあはれに思ふにけりて思ふにけり

一土居せまのしほやあまのしと思ふ事いれ
ほるうもわらふにたり

一後世を思ひ神者の精法瓶一を持まのし事
たり持經奉尊よいふ事なりよるに物をを
いよにたるにけり

一遁世者のたる事よし事ぬるにけり
ことなるにけり

一上臈ハ下臈よなる智者ハ愚者よなる
徳人の貧よ如く能ある人の無能よなる
通業たりの

一佛道を福ふといぬハ別乃事なり
いゝゝあるよりなる世のいゝゝ
多ぬを事一の道とす

念佛往生得失記

明遍作

先就念佛往生有_二四不定_一四決定義不定者一自
力念佛往生不定二假名念佛往生不定三惡見
念佛往生不定四慢心念佛往生不定也第一言自
力念佛者自身調心トテ心ノスニ事ヲノミ思テ就_二
身戒行之不_レ備就_二心觀念之不_レ起佛願力_一馮事
十クテ只我身ノ_二歎悲_一間无_二我心疑間斷_一故此
人日來貴ケニ見_レツレトモ命終時ツイニ无_レ住_二正念_一

佛願力憑不信故不預攝取不預護念故第
二言假名念佛者名借念佛思懸名利然間
人目三貴トケニ振舞トモ内心ニ拙キヲ巧ミ今
生ノ謫深シテ更ニ往生哀ミテ不策一念无厭離
穢土欣求淨土之心故命終時顯耻是以往生不
定也第三言惡見念佛者餘リニ他カニホコリテ
荒キ振舞不異外道彼し心思様彼四重五逆
罪人尚往生无滯雖吾身重罪不過殺盜淫等

十惡恐造罪者信本願心淺也又佛本願立十念
乃至一念十惡五逆罪人但臨終一念十念遂往
生也然策重念佛數是疑一念往生本願深信
本願心者不恐何惡コソ立テラレタリト云フ彼ノ人ハ
設雖不造罪心作罪之過アルカ故ニ往生不定也
第四言慢心念佛者慢心容有四种一上慢諸
人ヲ思ヒ括シテ勝レ我人ハアラシト思也二等慢无止
貴人ノ智云行云梯立テモ及フニキ人ノ様ヲ見

聞シテモ吾身モ同事ソカニ何事カ勝レ我ニ思フ心也三早
下慢餘リニ吾身ヲ思ヒ朽シテ高慢スル人ヲ見聞シテハ
ヤカテハカ无シト思フ心也四无慢皆諸人ノ様々ノ慢
心アルヲ吾身ハ何慢心モ思フ是即慢心也如是
心者皆失念佛利益心也故往生不定也然則
世間ニイト貴ク聞テ念佛者モ命終時不_ハ如本意
如上四種之中若一ツモヤトコソ思ハル事ナシ多_カ過
不出此四中也佛力尚_テ此四過不及力也_下是若至_レ

終_リトシラハ不可_ニ往生_ス也

第一_ニ翻_ス自力_ヲ於他力_ニ決定_シ往生者_ハ就_テ不_レ持_レ戒行_ヲ就_テ
妄念_ヲ不_レ止_ム非_ニ可_ニ從_レ本我力_ニ往生_ス只_ニ挾_テ佛願力_ヲコソ
今般可_ニ遂_ニ往生_ス道理_ナシハ佛願力_ハ即衆生力_ニ成
ラント發_シ下_ルハ其ノ御力_ヲ滿_ススミテ策_ニ我力_ヲ故_ニ心
本願_ニヨリツカス是_レ故_ニ佛願_ト我心_ト相違_テ行業_ハ弱_ク惡
障_ハ強_ク故_ニ不_レ往生_ス信_テ此理_ヲ佛本願_ヲ元_ニ來_リ為_シ煩惱
具足_シ我等_カ就_テ身_ヲ不_レ調_レ就_テ心_ヲ不_レ澄_レ助_ケ下_ルト思_フ

必如来攝取御心深護念御心深機感相應
故決定往生也應知第二翻假名心於真實心
決定往生者實ヤカニ今般離生死生淨土思心
發一念ナリトモ申ス念佛ヲ空ニクナサシト思ヒ此世
夢ノ中ナレハ免テモ角テモ有ナニ後世苦コソ難道
カナシキ事ナレ適難受人界受生幸區值佛
法今般不遂往生而復歸三途舊里徒受多
劫流轉痛苦乎聞佛法名字コソ苦ミシモ免レケ

メ恨哉以自身害自身訖誰恨誰搆今般
可遂往生大事思也此意地躰トシテサテ時
觸縁隨事假名心起名聞心發利養心發
テハ凡夫習ナレハ如是妄念ハ有ルソカシト思ヒテ
其心ヲウキ許サスニテ佛願カ方押直スヘシ押
直トハ助ケサセ下ヘ南无阿弥陀佛ト思入テ口申ス
ナラス
ナリ直トテ全ク妄念ノ發ルヲ止メヨ煩惱ノ起ルヲ制
セヨトニアラス但發ルニツケテモ助サセ下ヘト思ヒ入レ

テロ名号ヲ称ル心ヲ直ストハ云フ也

第三翻惡見於正見決定往生者念佛夕ニモ申
サハ造罪トモ苦シカラスト思フ心ヲ裏返シテ罪作
身ヲ夕ニモ念佛ヲ申セバ不捨即迎サセ下フソカニト可
信也何佛力作罪イニシト思食ヘキヤ然トモ称陀
如来平等慈悲見ルニ堪ヘ忍ヒスニテ五逆破戒十
惡者ノ夕ニ發シ下ヒテ誓願ナリ大方ハカクハカリ安
念モ不止惡業モ不止就テモ我身ノ拙キヲ顧

故一心一向憑称陀願カ往生セント可思也是
惡見ヲ正見ニシテ決定往生云フ也

第四翻慢心於直心決定往生者見聞賤
人思有様无淺朽心則離上慢也雖不
可隨順我者信行无下ニハカナケナラシマハ可勸教
化也又我ヨリ智行勝タラシ人ヲ敬ニ尊トメハ離
等慢過也又佛平等願カニシテ故人貴モ我
早モ同シク往生セシ事ノウレシサヨト思ハハ離早下

慢心失也如是得意我身无慢心思ヒテ人ハカ
ヤウニモヤ得意サルラント思フハ慢心ナリ只都无我
身賢一^ニ念トテモ不依佛願力何カ、ルアサニキ
者、輒ク往生スヘキ佛助下ト思ヒテ唱名号外設
好キ事ヲ思ヒト思フモ慢心ナリ惡キ事ヲ思ヒト思フ
モ亦妄念ナリ須仰佛願力禱^中往生者也言^ハ馮
佛カ者不^ニ心中觀念唯唱名号之心馮本願ト
ハ云フナリ大方念佛行者萬ノ事ヲ思ヒ^ニ時心ノ

底ニ留^ル事ナカシ尚思ハ、立聲高ラカニ可唱名
号^ヲ惣称名外決定往生正業ナシ称名外決定
往生信心ナシ三心モ即称名外ナシ護念モ即
称名外ナシ攝取益モ称名ヨリ顯シ无上益モ称
名ヨリ顯シ厭穢土心モ称名ヨリ顯シ願往生心モ
称名ヨリ顯シ是則法藏菩薩昔他力本願故
今称陀如来自在神力故也可仰可信可喜
可唱也

于時元祿十一戊寅年殊九月三日

雲竹謹書

佛敎大學新藏

168206



